

第1453回(2月27日)

農家の借金

(農村金融研究会) 高橋五郎

農家の負債問題は、負債をもった農家だけの問題ではなく、いま、ひとつの社会問題になりつつある。この報告は多額の借金に立ち向かう実在する6人の農家の話を中心とする。しかし彼らは、格別非難されるような私的な理由だけでそうなったわけでは決していないという意味で、これら負債問題は個人の問題としてかたづけられる性格のものではない。

とはいえ、彼らの負債が仕方のなかったものだとも言えない。もし、経営者としてみた場合、彼らには反論できそうにない点も少なからずあったからである。

そこを考えながら、農協や行政のもつ問題点を指摘していくならば、その指摘も説得力を倍加させ、効果をもつ。農家、農協、行政がもつ問題点の関連も分かりやすくなる。

この研究を、私は、農家が負債問題についてこのような考え方をとってくれるように願いつつ行った。したがって、まず農家が自分の負債問題をどう分析し、いかに対応するかという点に中心をおいた。

具体的な内容は、高橋五郎『農家の借金Ⅱ』(農文協、1987)を参照されたい。その項目は以下のとおりである。

第1部 なぜ増える農家の借金

1. 昔の負債、今の負債
2. ねらい撃ちされた“借金市場”農村
3. 規模拡大がもたらす借金づけ
4. 返済見通しの狂う原因

第2部 借金苦の嵐のなかで

[事例1] 再建にける肥育牛経営の兄弟

1. 負債の山に迷い込む
2. 支出内容を丹念に検討
3. 借金づけからの脱出口を探る

[事例2] 経営掌握、豚の能力発揮で借金克服

1. 4,000万円の負債をかかえて

2. 出荷頭数増が経営改善の決め手

3. 負債べらしは技術の“確立”から

[事例3] 父の借金を相続、苦闘する酪農青年

1. 借金抱えて息子の出番
2. 経営委譲は「借金委譲」だった
3. 借金を借金で返すしくみ
4. Kさんの経営支出を分析すると
5. 経営内容向上と酪農技術確立を

[事例4] 「稲作・野菜」のUターン青年が背負った借金苦

1. 旧家の家柄と借金とを引き継ぐ
2. 息子の時代の借金の性格
3. Hさんの農業経営を分析する
4. やがて迎える“返済ピーク時”に備えて
5. 危機突破への三つの提言

[事例5] 親子2代、努力で築く柑橘経営

1. 柑橘組合づくりで大きな借金をしたが
2. T柑橘園の借金の性格は?
3. Tさんの経営を考える
4. Tさん一家の生活と生き方を考える

[事例6] 絶望の淵からの脱出口は?

1. 酪農地帯に吹く冷たい風
2. こんな農家に誰がした
3. かすかな光を求めて

第3部 借金べらし、安定経営への提言

1. “生活”と“経営”とをこうさばく
2. 借金時代の農家生活と経営

(文責・小林弘明)